

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	高砂市立高砂児童学園		
○保護者評価実施期間	令和6年11月11日 ～ 令和6年12月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	令和6年11月18日 ～ 令和6年11月29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○訪問先施設評価実施期間	令和6月11月12日 ～ 令和6年12月25日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	6人	(回答数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童学園で児童発達支援を利用していた方が、就園・就学されるタイミングで保育所等訪問支援を利用される方がほとんどなので、幼少期の頃のこどもの様子が分かった上での支援を考えることができていると思います。	児童学園を卒園された方が保育所等訪問支援を利用している場合は、幼少期の園での様子やこどもの特性を担任などからも聞き取るなどして、どのような支援体制が有効なのかを職員で話し合うようにしています。	これからも関係機関との連携を密にしながら支援体制を整えていきます。 保護者とのつながり役を担い、スムーズな移行となるよう支援していきます。
2	長年障がい児支援に携わっている職員が保育所等訪問支援を担当しているので、それぞれのこどもに合った支援内容を考えていることができていると思います。	職員間で情報共有できる機会を設け、支援についての振り返りを行いながら次の支援につながるようにしています。	引き続き職員間での情報共有をしっかりと行い、こどもに合った支援を検討し、地域で安心して楽しく過ごせるようにしていきます。
3	公認心理師も在籍しているので、保護者のフォローも専門的な立場から行うことができていると思います。	保護者の方からの相談ごとに関しては、公認心理師が丁寧に話を聞きながら必要に応じて助言などを行っています。	保護者からの相談ごとがあった時には、ゆっくり話を聞く機会を設け、保護者に寄り添った支援を行っていき、定期的なアフターフォローも行っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援に関わる職員が少なく、新たに保育所等訪問支援を利用したいと考えているすべての保護者の要望に応えることが難しい。	保育所等訪問支援を利用したいと考えておられる方に対して、職員体制が整っていない為すぐに受け入れることができない。	児童発達支援センターとして、利用したいと考えておられる方に丁寧にかかわり、要望に応えることができるように人員配置を行う必要がある。
2	保育所等訪問支援に関わる職員のうち半数が、非常勤職員のため、支援を行う日数調整が難しい。	非常勤職員が担当している為、日程調整が難しいことがあり、訪問先施設との調整に時間がかかる。	職員配置を行い、スムーズな支援へとつながるようにしていきたい。
3	保育所等訪問支援について、説明をして支援に入らせていただくようにしているが、そもそもこのシステムを園・小学校・中学校が知らないことがある。	保育所等訪問支援という支援について、名前のイメージが保育所になってしまい、小学校・中学校に浸透しにくいように感じているので、保育所等訪問支援という支援を、多くの現場に知ってもらう必要がある。	保育所等訪問支援についての保育・教育現場へ行政側からの説明会などを開き、多くの方に知ってもらう必要がある。